

力を合わせて、“逆風”に立ち向かおう

—「第 46 回衆議院選挙」を終えて—

昨日、投開票された「第 46 回衆議院選挙」で、フード連合の組織内候補である城島光力候補(財務大臣)は、“逆風”のなかで惜敗し、議席を守ることができなかった。多くの皆様のこの間の取り組みに対して、改めて御礼を申し上げるとともに、フード連合の力不足をお詫びする。

また、私たちが支援してきた民主党は、政権批判の“逆風”のなかで 57 議席にまで激減した。3 年 3 か月間の民主党政権に対するきびしい審判である。

一方、憲法を改正し「自衛隊を国防軍として位置付ける」ことを公約に明記した自民党は、294 議席と絶対安定多数を確保して政権復帰を果たした。自公両党は、参議院で否決された法案を再可決できる 325 議席を確保したことから、国会審議を強気で進めてくることが想定できる。

また、働く者のセーフティネットを破壊する「解雇規制の緩和」や「最低賃金制の廃止(改革)」を公約に掲げた日本維新の会は、54 議席を獲得して躍進した。

今後の政権運営では、領土問題を強調してナショナリズムを煽るなど、右傾化路線が顕著になると思われる。また、「自助」を基本とした新自由主義的政策が進められ、社会保障政策や雇用・労働政策の後退、格差の拡大や貧困層の増大など、社会の劣化が懸念される。

新政権に対してチェック機能を発揮し、自民党や右翼・新自由主義政党の暴走に歯止めをかけていくためには、リベラル勢力を総結集し、新政権に対する“対抗軸”を作っていく必要がある。民主党は、選挙結果を厳粛に受け止めて解党的出直しをはかり、危機感を持ってリベラル勢力を束ねていくべきである。

私たち働く者と労働組合にとっても、“逆風”の時代に入る。しかし、きびしい時代だからこそ、労働組合の存在意義が問われてくる。労働者の権利と労働条件、そして平和を守っていくためには、格差と貧困を拡大させる新自由主義的政策、平和を脅かす右傾化路線と対決しなければならない。

「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、連合に結集して働く者の力を合わせ、“逆風”に立ち向かって行こう。

来年の夏には参議院選挙がある。次の“政治決戦”に向けて、連合方針を踏まえ、フード連合は、働く者の代表と私たちの食品産業政策を理解し、実現に協力していただける候補者の当選に向けて、全力で取り組もう。

2012 年 12 月 17 日

日本食品関連産業労働組合総連合会
会 長 江 森 孝 至